



# 長野県支部会報

発 行：(公社)日本技術士会 長野県支部  
編 集：広報委員会  
会員数：正会員248名、準会員50名  
(令和7年10月末現在)

## 令和7/8年度 新支部組織体制スタート！ 2025年7月5日 年次大会開催

### 2025年の行事紹介①

#### 年次大会 CPD講演会

長野県支部 年次大会が2025年7月5日 ホテルモンターニュ松本にて挙行されました。大会資料に基づき、各委員会事業報告・会計決算・2025年度事業計画・一般予算案が報告されました。年次大会は2部構成で行われ、第1部の年次大会に引き続き第2部では技術者倫理CPD講演会を開催し、多くの方に聴講頂きました。年次大会の後には、技術士資格の新規合格者を交えた交流会も開催されました (P6参照)。

- 日 時：令和7年7月5日（土） 13:30～16:00
- 場 所：ホテルモンターニュ松本（松本市）
- 参 加 者：55名（会場36名、オンライン19名）
- 講 師：國井 久美子氏
- 感 想

第2部 技術者倫理CPDでは、技術者にとっての倫理を学ぶ、貴重な時間となりました。大学等において、技術者倫理の必須授業を担当する講師の講演は興味深く、技術者に求められる素養や技術者倫理の基本を学び直す機会となりました。



前支部長 中村 勤氏



新支部長 田代 幸雄氏



日本技術士会 総務委員長  
小林 政徳氏



技術者倫理CPD  
講師 國井 久美子氏



年次大会（会場）の状況

## 目 次

表紙	行事紹介①：年次大会、技術者倫理CPD 國井久美子／目次
1	長野県支部の会員構成、長野県支部組織図
2	支部長挨拶：長野県支部支部長 田代幸雄、新任幹事紹介①②
5	行事紹介②：防災CPD講演会 篠田諭、太田勝一『建築基準法と耐震設計、神城断層地震の白馬村被害と地質特性』
6	③：東信地区CPD 小林征吾、林洋平『電動建機の世界の動向及び電池式ミニショベルデモ』
6	行事紹介④：中信地区CPD 矢口健治『まつもと水道100周年』／行事紹介⑤ 合格祝賀行事
7	行事紹介⑥：中信地区CPD 藤本祐文、篠原慶二、田嶋裕二『大町ダム等再編事業（土砂輸送用トンネル）見学会』
7	⑦：2025年 技術発表会 時枝幸伸、保尊とし子、山浦直人
8	行事紹介⑧：南信地区CPD 小平裕也『塑性流動結合を用いた異種板材の結合技術』
9	⑨：北信地区CPD 吉谷純一『総合治水から流域治水への展開』
9	今年の行事：2026年 技術発表会募集/2025年度 防災CPD講演会（予定）、長野県委嘱委員の紹介
10	広 報 活 動：①長野高専技術士説明会、②技術士との座談会
11	会員投稿①：市岡恵利子『理工系人材の育成に向けて～取り組みについての報告並びにご協力のお願い～』
13	会員投稿②：林正昭『山に魅せられた後半生』
15	協賛団体の御紹介と募集、備品貸し出しのお知らせ、長野県支部事務局・連絡先

# 長野県支部の会員構成と組織

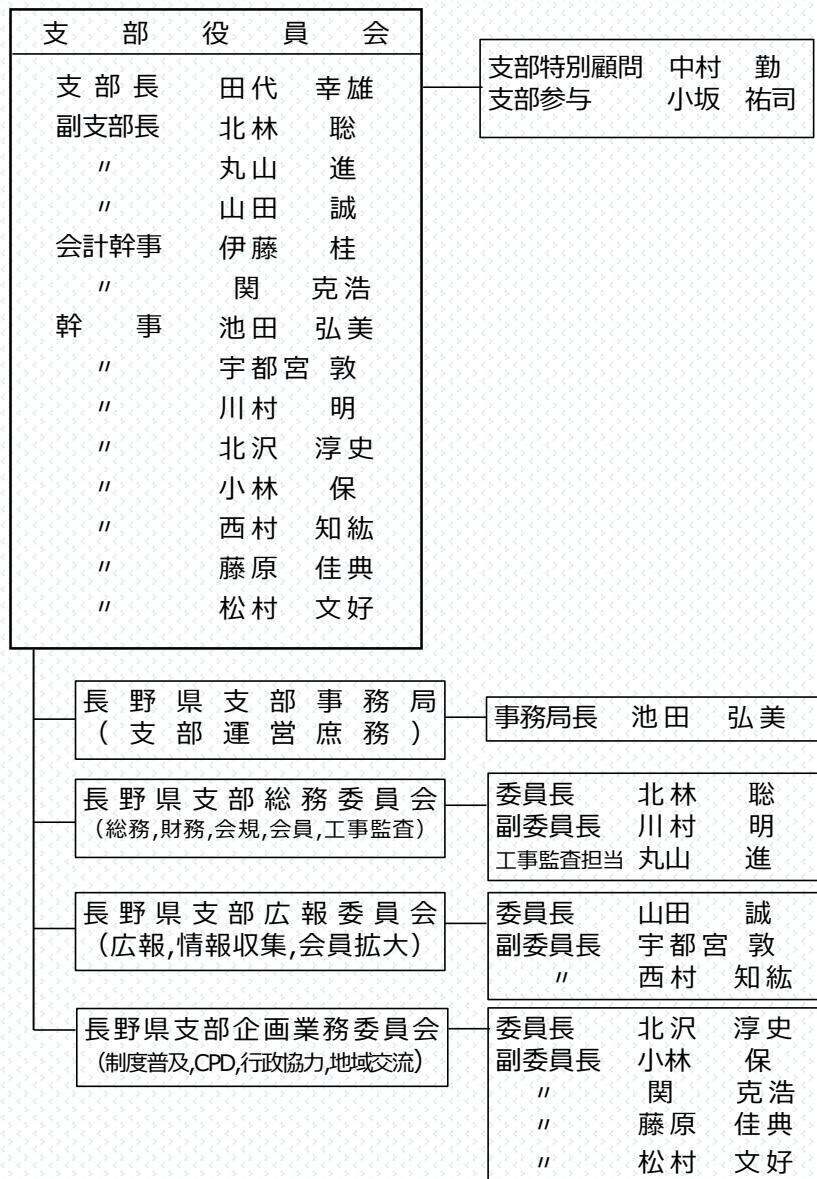
長野県支部の会員構成と組織です。昨年、2~3月におこなわれました「2025年度長野県支部幹事選出選挙」にて幹事14名が信任されました。支部幹事の任期は2年で、各委員会に所属し活動しております。

## 長野県支部の会員構成 (2025年10月末現在)

会員数			
NO.	技術部門	正会員	準会員
1	機械部門	24	8
2	船舶・海洋部門	0	0
3	航空・宇宙部門	0	0
4	電気電子部門	21	7
5	化学部門	5	2
6	繊維部門	2	1
7	金属部門	8	2
8	資源工学部門	0	0
9	建設部門	135	23
10	上下水道部門	26	4
11	衛生工学部門	5	0
12	農業部門	8	4
13	森林部門	15	0
14	水産部門	0	0
15	経営工学部門	5	4
16	情報工学部門	3	6
17	応用理学部門	16	2
18	生物工学部門	2	2
19	環境部門	12	10
20	原子力・放射線部門	0	0
21	総合技術監理部門	69	0
部門別の合計数		356	75
会員数		248	50

注1:複数部門の登録者・合格者等があり、部門別では重複して計上しています。

注2:準会員は、技術士第一次試験合格者、日本技術者教育認定機構(JABEE)認定課程修了者、技術士第二次試験合格者で技術士未登録の方です。



## 会員勧誘・電子メール登録のお願い

(公社)日本技術士会の会員になると、長野県内の会員は自動的に長野県支部の会員となります\*。長野県支部の情報交換や組織力アップのためには、会員数の拡大が重要です。未加入の資格保有者を御存知でしたら、是非、お声掛け頂き一緒に長野県支部を盛り上げていきましょう。

また、事務局(日本技術士会及び長野県支部)からの連絡は、月刊技術士のほかに電子メールでも行っております。電子メールを本会に登録されていない方は、日本技術士会ホームページから登録・変更ができますので、是非登録をお願いいたします。なお、本人情報の案内メール区分のところを「当会からの案内メールを受信する」にしてください(行事案内など支部からの案内がメールで届きますので便利です)。

\*:(公社)日本技術士会の規定により、月刊誌の送付先住所(自宅住所か勤務先所在地が選べます)によって所属する地域組織(地域本部や県支部)が自動的に決められることとなっています。

## 支部長就任挨拶

2026（令和8）年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

私は、2025（令和7）年7月の年次大会において、長野県支部長を拝命いたしました田代幸雄でございます。支部の発展と会員の皆様のご期待に添えるよう、身の引き締まる思いで職務に取り組んでまいる所存です。

前任の中村勤様には、4年にわたり支部長として多大なるご尽力を賜りました。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

長野県内には、多くの技術士が活躍しており、現在、当支部には21部門中16部門にわたる技術士が所属し、正会員248名、準会員50名の計298名が登録しております。各分野において、専門家として高い見識と技術力をもって、地域社会の発展に貢献されていることは、誠に頼もしい限りです。

当支部では、年次大会・技術士合格祝賀会の技術者倫理に関するCPD行事、また会員による技術発表会を含む東信・北信・南信・中信の各地域ブロックでのCPD行事や防災CPD行事などを、活動の柱として推進してまいりました。これらのCPD行事は、県内技術士の活動状況や、長野県の歴史・風土への理解を深めるとともに、技術士法に基づき、専門能力の維持・向上を図る継続的な教育・研鑽の一環であります。

日本技術士会は本年、「日本技術士会DEI推進宣言<sup>\*1</sup>」を公表しました。この宣言では、技術分野における多様性（Diversity）、公平性（Equity）および包摂性（Inclusion）を推進することにより、すべての技術士がその能力を十分に発揮し、社会課題の解決やウェルビーイング<sup>\*2</sup>の向上に貢献することがうたわれています。この方針のもと、技術士の活動のさらなる活性化と深化が求められており、特に若者や女性の参画促進を通じて会員の拡大にもつながることが期待されています。この方針に基づき、大学・高等専門学校・関係技術者団体との連携を一層深め、技術士の活動紹介やCPD行事の共催を推進してまいります。また、女性技術士の活躍事例として、市岡恵利子氏より貴重な活

動報告をご投稿いただきました。こうした事例の発信を通じて、多様なロールモデルの提示にも努めてまいります。

令和6年に発生した能登半島地震をはじめ、近年は豪雨や台風などによる大規模災害が全国各地で頻発し、甚大な被害をもたらしています。こうした災害対応・復旧の場面において、私たち技術士が果たすべき役割への期待は一層高まっています。

大都市圏では、災害発生時の復興支援を目的に、士業による連携組織（技術士・建築士・弁護士・行政書士など）が整備されています。

一方、長野県では、県土の広さや地形の複雑さ、技術士の人員構成などから、同様の士業連携体制を構築することは容易ではありません。しかし、県内にはすでに複数の企業・団体が設立した協会が存在し、それぞれが県や市町村と災害協定を締結し、災害時対応に取り組んでいます。これらの協会に所属する技術士は現場で中核的な役割を担っており、今後の災害対応体制の整備においても極めて重要な存在です。

今後は、まず各技術士が所属する協会や組織の情報を収集・整理するとともに、建築士会・弁護士会など他の士業団体との対話を持ち、災害発生時に効果的に連携できる体制の構築に向けて検討を進めたいと考えています。

今後、支部の幹事、会員の皆さまのご支援とご協力にもと、支部のさらなる発展により一層の努力を重ねてまいります。よろしくお願ひ申し上げます。

\*1:多様性（Diversity）、公平性（Equity）、  
包摂性（Inclusion）

\*2:ウェルビーイング（Well-being）；肉体的・精神的・社会的に満たされた状況

**田代 幸雄**  
長野県支部 支部長

技術士  
(建設/上下水道/総監)



# 2025年度 新たに選出された新幹事を紹介します

(五十音順)

**氏名** : 宇都宮 敦 (衛生工学部門)

**所属** : (一社)長野県薬剤師会

【自己紹介】出身は伊那市で、一時県外に出たものの、現在は長野市在住、松本市勤務と、生まれてからこれまで南信・北信・中信と長野県内幅広くご縁をいただいてまいりました。

現在の勤務先は「薬剤師会」ですが、「技術士」として水質や大気質などの測定・分析を通じた技術支援に携わっております（資格取得時の選択科目は再編により消滅してしまった大気管理です）。

これまで技術士会の活動には、時折CPD行事に参加させていただく程度でしたが、このたび、長野県支部幹事ならびに広報副委員長を拝命いたしました。微力ではございますが、技術士の活動や魅力をより多くの方に知っていただくとともに、技術士の将来発展に少しでも貢献できれば幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



**氏名** : 川村 明 (金属部門)

**所属** : 川村技術士事務所

【自己紹介】出身は杜の都仙台です。現在は諏訪湖と八ヶ岳からの朝日が眺められる岡谷市の高台に住んでいます。高専在学時の企業実習は東京下町で、蒸し暑さにまいりました。そのため、卒業後光学機器メーカーに就職するとき、湿度が低く過ごしやすそうな長野県を希望しました。以後40年間ほぼ岡谷と辰野で過ごしてきました。在職中は、生産技術畠を中心に社内講師や中国企業の指導も経験してきました。定年後技術士事務所を開設しながら中小企業で働き、県工業技術総合センターや協力会社等の支援を得て社員にモノづくり基礎教育を実施してきました。

今回、県技術士会から他部門の幹事を加えたいという話があり、幹事の一員に加えていただくことになりました。県技術士会のCPD行事は、多岐にわたり異分野のことを知る機会が多くあります。この利点を生かし、公益の確保を考えながら技術士知名度向上と支部発展に尽力したいと思います。よろしくお願ひいたします。



**氏名** : 関 克浩 (建設部門)

**所属** : 株式会社 ジッソク

【自己紹介】出身は長野市です。大学を卒業後長野県職員となり、土木の技術職として38年間勤務した後、3年前に定年退職して(株)ジッソクに再就職しました。平成31年4月にダム管理の経験は全く無かったのですが、裾花ダム管理事務所長として異動となりました。丁度、裾花ダムは建設後50年を経過し、堆砂が進んでいること等から、ダム再生事業の計画を開始したところで、ダム再生計画策定に係る技術検討委員会による検討を進めていました。治水ダムではダム管理に係る資格者の配置は特段規定されていませんが、所長としてダム管理を行うに相応しい資格を得たいと思い、技術士の取得を目指すことにしました。在職2年のうちに技術士を取得することは叶いませんでしたが、異動後次の職場で合格することができました。これからは、技術士として今まで培った経験を生かして、社会インフラの構築と維持管理に寄与していきたいと思います。



## 新任幹事紹介②

**氏名** : 西村 知紘 (機械部門)

**所属** : 富士電機株式会社

【自己紹介】はじめまして。私の生まれは岐阜県ですが、現在は長野県松本市に住んでいます。大学院博士後期課程を修了した後、旧 富士電機デバイステクノロジー株式会社（現 富士電機株式会社）に就職し、現在まで長野県でお世話になっています。学生の頃は物質科学や材料工学に興味を持ち、原子・分子の電気伝導などを研究していました。就職してからは、パワー半導体と呼ばれる製品の研究開発、量産化、それに製造技術に係る仕事に従事しています。

令和元年度の技術士第二次試験に合格し、技術士登録しました。現在は、勤務先の技術者から日々刺激を受けつつ、企業内技術士として活動しています。専門分野は物性工学で、所属学会は応用物理学会とエレクトロニクス実装学会です。微々たる力ですが、長野県支部の発展に協力させていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



**氏名** : 藤原 佳典 (電気電子部門)

**所属** : 中部電力株式会社

【自己紹介】生まれも育ちも長野県で、現在は千曲市に暮らしています。技術士登録は電気電子部門で、専門は電力・エネルギー・システムです。これまで県内の事業場や名古屋の本社で勤務し、水力発電設備の保守や改良・修繕工事、新設工事など、水力発電に関わるさまざまな業務に携わってきました。

技術士会での活動は、これまで主にCPDを受講する側でしたが、このたび支部役員として参加させていただくことになりました。今後はCPDの企画や運営などを通して、技術士会の活性化に少しでもお役に立てればと思っています。

水力発電は長年にわたり安定した電力を供給してきましたが、近年の脱炭素化や再生可能エネルギー拡大の流れの中で、改めて注目を浴びています。老朽発電所のリフレッシュ改修や小水力の新たな開発も活発に進められており、そうした現場の様子や取り組みを皆さんにお伝えできれば幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。



**氏名** : 松村 文好 (建設部門)

**所属** : 株式会社アンドー

【自己紹介】下伊那郡高森町出身、現在は松本市に在住しています。県内の大学を卒業後、現在も勤務する株式会社アンドーに入社しました。私が南信出身であったことから、入社時から飯田支店での勤務を続けてきましたが、50代になって松本市に単身で住居を移して本社勤務となり、主に砂防分野の調査・設計業務に携わっています。

私が働き始めた翌年には、建設省（当時）が多自然型川づくり推進への取り組みを始め、県内でも多くの河川調査や設計業務が発注されました。このような業務を担当し多くの川づくりに関わってきた中で、その経験を活かして平成26年に、建設部門の河川、砂防及び海岸・海洋の技術士を取得しました。

本年度より支部幹事、企画副委員長を務めさせていただくこととなりました。

微力ではありますが、皆さまのお役に立てるよう精一杯務めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



また、以下の皆さまが昨年度をもって幹事を退任されました。大変お疲れさまでした。

岩渕省氏、 小口雄平氏、 倉田雅一氏、 小坂祐司氏  
中村勤氏、 藤原浩明氏、 森茂雄氏 (五十音順)

## 『①建築基準法と耐震設計・ ②2014年 神城断層地震による 白馬村の被害と地質特性』

- 日 時：令和7年1月11日（土） 13:30～16:30
- 場 所：松南地区公民館（松本市）
- 参加者：計38名
- 講 師：①篠田諭氏、②太田勝一氏
- 感 想：能登半島地震など頻発する直下型地震への対応を考えるうえで、篠田先生から建築物被害、特に住宅家屋に対するご講演、太田先生から震源断層から離れている場所での地盤特性に起因した地震被害についてのご講演をいただきました。地震災害発生の可能性が高い地域に暮らすにあたつて、建物や立地する地盤特性が被害の程度へ及ぼす影響を改めて学ぶ機会となりました。



会場風景



篠田諭氏



太田勝一氏

## 2025年の行事紹介③

## 『電動建機の世界の動向及び電池式ミニショベルの デモンストレーション』

- 日 時：令和7年2月8日（土） 13:00～15:00
- 場 所：さかきテクノセンター（坂城町）
- 参加者：19名（講師含む）
- 講 師：(株)竹内製作所 開発部 小林征吾氏、林 洋平氏
- 感 想：竹内製作所様が開発された電池式ミニショベルの紹介と実機デモ、脱炭素化に向けた世界の動向等について講演をいただきました。電池式ミニショベルは、排ガスゼロで静音性に優れているため、地下や屋内、夜間工事に最適との事。従来のミニショベルに比べて価格が高い点や、稼働時間・充電時間に課題は残りますが、新技術を積極的に導入し、これらの課題の克服していくものと考えます。脱炭素化や労働力不足解消する技術として、多くの建機が稼働する未来を垣間見る講演・見学会となりました。



講師の皆さま



会場風景



電動重機の実演

## 『まつもと水道100周年 ～102年目を迎えた松本の水道について～』

- 日 時：令和7年3月1日（土）13:30～15:00
- 場 所：松本市上下水道局（松本市）
- 参加者：計23名（他、講師1名）
- 講 師：松本市上下水道局上水道課 課長補佐 矢口健治氏
- 感 想：松本市の水道事業の変遷、主要な施設と水運用の概要を知る良い機会となりました。特に、中央監視制御室で実践されている高度で特殊な水運用方法等について、施設見学しながら解説していただいたことは有意義でした。カルキ臭対策や管路の耐震化、PFOS・PFOAなど、水道事業全般に関わる多岐にわたる質問に対しても、わかりやすく、丁寧に説明していただきました。



講師 矢口健治氏



会場風景



監視室を見学

## 2025年行事紹介⑤

### 技術士資格 新規合格者 祝賀行事

- 日 時：令和7年7月5日（土）16:00～18:00
- 場 所：ホテルモンターニュ松本（松本市）
- 参加者：34名
- 感 想：これまで技術士資格新規合格者の祝賀は、4月に単独行事として開催してきましたが、初めての試みとして、年次大会にあわせて開催しました。多くの合格者に参加をいただき、技術士資格取得を目指したきっかけや、資格を生かした今後の抱負などを語っていただきました。力強い発言に、会員相互が刺激を受け、活発に意見交換が行われ、親睦を深める機会になったと感じました。



年次大会で技術士1次・2次試験 合格者の紹介



交流会の様子

## 2025年の行事紹介⑥

中信地区

CPD見学会

### 『大町ダム等再編事業 (土砂輸送用トンネル工事)見学会』

- 日 時：令和7年10月20日（月）  
14:00～15:30
- 場 所：長野県大町市平2112-2
- 参加者：計26名（講師含まず）
- 講 師：国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所 建設専門官 藤本祐文氏  
前田建設工業株式会社 土木事業本部 機械部 上級技師長 篠原慶二氏  
前田・安藤ハザマJV 大町TBM 作業所 副所長 田嶋裕二氏
- 感 想：ダムの洪水調整容量を確保するためには流入土砂対策が重要で、現在はダンプトラック搬出を行っているものの、土砂流入量は搬出量を上回っているため今回のトンネル工事に至ったとの事でした。トンネル工事は岩盤などの条件から最適なTBM (Tunnel Boring Machine) 工法が選定され、発破による掘削などと比べても工期の短縮が出来るそうです。使用される機材は、ほぼ海外製だったことは少し残念に感じましたが、日本では珍しい工法に加え、狭い坑道で安全かつ効率的に作業されており、参加者はしきりに感心しておりました。



講師の皆さん



坑内の見学



パネル前での集合写真

## 2025年の行事紹介⑦

### 『長野県支部会員 技術発表会』

- 日 時：令和7年11月1日（土） 14:00～16:00
- 場 所：小諸市市民交流センター（会議室6・7）  
〒384-0025 長野県小諸市相生町3丁目3番3号
- 参加者：計55名（講師含む）
- 講演と講師
  - 「円周率とコンピュータ技術」時枝幸伸氏
  - 「水道水の品質管理」保尊とし子氏
  - 「県内の河川堤防の成り立ち—霞堤を中心に—」山浦直人氏
- 感 想  
今年の技術発表会は東信地区CPDとして、東信地区の会場およびオンライン併用のハイブリッドで開催し、大勢の方に聴講頂きました。これまで調査・研究されてきた事を独自の解釈なども交えながら3名が講演され、質疑も活発に行われる技術発表会となりました。



会場風景



時枝幸伸氏



保尊とし子氏



山浦直人氏

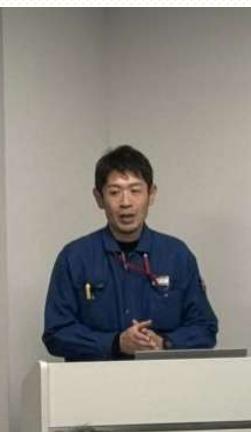
## 『塑性流動結合を用いた異種板材の結合技術』

- 日 時：令和7（2025）年11月21日（金） 14:00～16:00
- 会 場：太陽工業株式会社 テクノロジーセンター輝（テル）
- 講演会の演題と講師
 

演題：「塑性流動結合を用いた異種板材の結合技術」  
講師：太陽工業株式会社 テクノロジーセンター輝 技術開発センター 研究開発G 小平 裕也 氏
- 参加者：22名（講師含む）
- 感 想：講演会は、異種結合技術での問題解決策の一つの研究成果を発表されました。工場見学会は、プレス工場と金型工場、製品展示室を見てまわりました。金型工場は、地下にあり機械個々の周辺温度が一日あたり±0.3℃に制御され、素晴らしい環境に驚きました。プレス加工も自社開発のトランスファー装置で、機械制約を超えた多工程加工ができ、技術開発も進んでいると感じました。新しい塑性加工技術を垣間見たようです。



会場の様子



小平裕也氏



美術館の様な外観の「輝」

『総合治水から  
流域治水への展開』

- 日 時：令和7（2025）年12月6日（土） 13:30～15:30
- 会 場：信州大学工学部 国際科学イノベーションセンター  
2階セミナースペース
- 講演会の演題と講師
 

演題 「総合治水から流域治水への展開」  
講師 吉谷 純一 氏  
(信州大学工学部水環境・土木工学科 教授)
- 参加者：52名（会場およびオンライン）
- 感 想

講演会は、信州大学工学部水環境・土木工学科との共催で開催され、信州大学工学部国際科学イノベーションセンター セミナースペース（長野市）での会場講演とオンライン配信で実施致しました。

吉谷講師から、千曲川流域の特徴、令和元年災害の概要、千曲川流域での流域治水、総合治水から統合水資源管理への歴史的変遷について豊富な知見やデータを基にしたご講演をいただきました。

改めて令和元年の台風19号による災害発生の状況やメカニズムを振り返るとともに、今後の流域治水の取り組みの重要性と課題について理解を深めることができました。



吉谷 純一氏



セミナースペースでの講演

## — 2026年長野県支部会員による技術発表会のご案内 —

長野県支部では、会員の自主的な学習、調査研究、活動などの発表の機会として、「支部会員による技術発表会」を開催します。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

○発表内容は、自主的調査研究成果、技術士としての社会貢献活動、業務の内容、仕事のスタイル・改善など、概ね30分程度の発表内容をお願いします。

開催時期や募集要項などは、公益社団法人 日本技術士会長野県支部HPに掲載、同報メールにて公開・募集してまいります

## 2025年度 防災CPD講演会(予定)

## 2026年最初のCPDです

防災

CPD講演会

## 『土砂災害に対する森林の底力とその限界』

斜面防災に関して長野県支部では、地附山地すべりや善光寺地震に際した土砂崩壊など山地の多い長野県での大規模斜面災害について学んできました。長野県の山地は、古くから森林資源として開発されてきています。明治維新前後に乱伐された松本周辺の山地荒廃による信濃川水系の洪水対策として、牛伏寺川のフランス式階段工をはじめとする総合的な対策は有名なところです。今回は斜面防災に大きく関連する植生面からのご講演です（会場集合とオンライン併用のハイブリッド方式で開催します）。

- 日 時： 2026年2月7日（土） 13:30～16:30
- 会 場： 〒399-0002 長野県松本市芳野4番1号（なんなんひろば内）松南地区公民館 3階音楽室
- 講演内容（予定）
 

演題：「土砂災害に対する森林の底力とその限界」  
講師：信州大学特任教授 平松 晋也氏
- 申込締切： 2026年1月24日（土）
- 定 員：会場 30名、WEB 50名程度

行事内容の詳細および参加申し込みは支部HPを参照ください。

## 長野県から委嘱を受けた委員等の紹介

## 長野県建設工事紛争審査会（事務局 建設部建設政策課）

- 審査会の目的**：建設工事の請負契約をめぐる紛争につき、専門家による迅速かつ簡便な解決を図ることを目的とする
- 審査会の委員**：委員構成15名：弁護士6、土木2（内本支部1）、建築士5、民事調停委員2
- 取り扱う事件**：当事者の一方、又は、双方が建設業者である場合の紛争のうち工事の瑕疵（不具合、契約不適合）、請負代金の未払いなどのような「工事請負契約」の解釈又は実施をめぐる紛争の処理を行う
- 紛争処理方法**：審査会は、「あっせん」、「調停」又は「仲裁」のいずれかの手続きによって紛争の解決を図る
- 委員の任期**：任期2年（令和6年6月20日～令和8年6月19日）

小坂 祐司

支部参与

技術士  
(建設／  
総合技術監理)

## 1. 支部広報活動の紹介

- ・技術系大学、短大等に技術士試験ポスター配付による技術士資格の認知向上活動
  - ・日本技術士会長野県支部ホームページ等を活用した情報発信
- などによりまして、会員の皆さまへの情報提供と技術士の裾野を広げる活動を行っております。長野県支部ホームページにおいて、行事案内等を随時更新しております。是非、ご確認ください。

## 2. 支部広報活動の紹介

- ・次世代技術者育成への支援活動：長野工業高等専門学校での技術士セミナー  
以下に2つのセミナー活動をご紹介いたします。

### 2025年の広報活動①

#### 『長野高専技術士説明会の開催』

毎年、長野高専において学生向けに技術士説明会を開催しております。講師は高専のOB/OG技術士で、それぞれの体験談を交え、これから進学・就職していく後輩達にエールを送る講演となりました。

日 時：令和7年1月17日（金） 14:30～16:00

場 所：長野工業高等専門学校 一般棟（3階） 35番教室

対 象：都市デザイン系3年生の学生

講義1：「技術士って？－技術士制度について」

池田技術士事務所 池田 弘美氏 技術士（建設、上下水道部門）

講義2：「女性土木技術者としての歩み」

（株）ヒューテック 横口 美樹氏 技術士（上下水道部門）

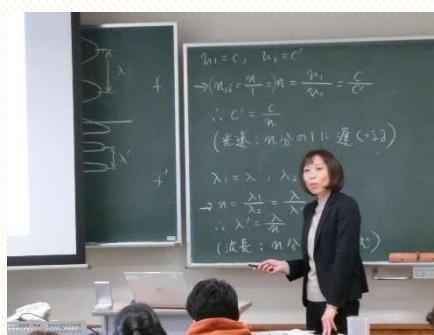
講義3：「長野県職員の業務紹介、継続的な資質向上の必要性」

長野県 佐久建設事務所 佐久北部事務所

土屋 博幸氏 技術士（建設、総合技術監理部門）



池田氏



横口氏



土屋氏

### 2025年の広報活動②

#### 「技術者に求められるものとは？」 技術士との座談会（学生支援）

長野高専技術振興会と長野高専地域共同テクノセンター共催の学生支援セミナーに長野支部幹事が講師で参加しました。講師の経歴や仕事を踏まえた技術士の説明と、学生・先生を交えた座談会が行われました。

（残念ながら池田弘美氏が急遽ご欠席となつたため、池田氏の内容も山田氏より説明されました）

お聞きすると技術士1次試験にチャレンジする学生も居るとの事で、以前と比べると技術士の認知も進んでいるかもしれません。将来の技術者たちを頼もしく感じた講演になりました。

日 時：令和7年11月12日（水） 14:30～16:00

場 所：長野工業高等専門学校 地域共同テクノセンター

対 象：長野高専学生

講 師：株式会社エプソンロジスティクス 山田 誠氏  
技術士（電気電子、総合技術監理部門）

池田技術士事務所 池田 弘美氏  
技術士（建設、上下水道部門）



# 理工系人材の育成に向けて

## ～取り組みについての報告並びにご協力のお願い～

私が所属するNPO法人「女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト」では、理工系分野における女性人材の確保が難しい状況を鑑み、主に女子中高生に向けて、研究者や技術者との交流を通して、自らの理工系キャリアパスを描くことができるよう支援する活動を行っております。女子中高生が「科学や技術にふれ」、その世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学や技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会となるよう「女子中高生夏の学校（夏学）」といった企画を2005年からほぼ毎年開催しております。全国から100名ほどの女子中高生が参加し、二泊三日の合宿研修期間に、理工系の研究者や技術者、大学生・大学院生等との交流を通じて、理工系進路の魅力を知り、あるいは再確認し、理工系の進路に進むことについて考える機会を提供しています。

このような活動は、大都市圏で行われることが多いのですが、むしろ地方都市においての方が、中高生が理工系進路を積極的に選択するために必要な情報が不足していたり、また進路選択に対する保護者・教員のアンコンシャスバイアスが根強く存在するといった声も聞かれるところです。

そこで、地方都市においても、この夏学のエッセンスを取り入れた企画を開催しております、その一環として2024年に、長野市において信州大学と共に『理工系進路を考える女子中高生のためのワークショップ』を開催しました。信州大学工学部キャンパスを会場とし、県内から17名の女子中高生が参加しました。



実験実習の様子

参加者は、「アイスブレイク」で初対面の緊張をほぐした後、県内の企業において理工系職種で活躍される先輩方の話を聞く「キャリア講演」、信州大学の教員が担当する最先端科学に触れる「実験実習」、キャリア講演の講師や信州大学大学院生等を交えた「キャリア相談」、それらを基に参加者が自分の将来を考え発表する「キャリアプラン発表」といったプログラムを体験しました。理工系進路選択に関し『情報を収集』し、それをもとに『自ら考え』、考えた内容を『外に向かって発表』し、お互いに認め合うことにより『自己肯定感を得る』といった一連の過程の中で、改めて自分の進路についてしっかり考える機会となつたと思われます。

また、保護者向けのプログラムも用意し、進路選択に関するアンコンシャスバイアスを払拭し、理工系分野の楽しさを知ってもらい、子供たちの理工系進路選択に関しより理解を深めてもらうことを目指しました。



キャリア講演の様子





キャリア相談の様子

ワークショップ全体を振り返り、参加者からは「色々な職種の方の話が聞けて世界が広がった」「将来について、自分で少し整理ができた」「ほんやりとしか考えていなかった進路の方向性を定めることができた」「将来が楽しみになった」といった、主催者として喜ばしい声を聞くことができました。

信州大学は理工系の学部が県内4地区に展開されていることから、それぞれのキャンパスで開催することを目指し、2025年は、繊維学部のご協力のもと、上田キャンパスにおいて11月15日に同様の企画を開催しました。「繊維学部」は全国的にも珍しい学部であるため特別に関心を持っている生徒さんもいるのか、このワークショップでは遠方から参加された方もいらっしゃいました。今後はさらに、女性に限定せず、若い世代を対象にした取り組みを進めていきたいとも考えております。



参加者・スタッフ等記念撮影

日本技術士会においても、『技術サロン』等類似の活動が進められています。このような活動は、長い期間継続をしていくことによって、やっと少しずつ成果に繋がっていくものと思われます。現在、当NPO法人において長野県内で活動している会員はわたくし一人の状況であり、このような活動を広げていくためにも、日本技術士会長野支部の会員の皆様に、ご参画いただけたら非常に心強く思うところでございます。長野県の未来の『ものづくり』を支えていく人材を育てていくことにも繋がるこのような活動は、我々の大切な使命でもあると思われます。お力添えをお願いいたします。



キャリアプラン発表の様子

**市岡 恵利子**  
(いちおか えりこ)

技術士（建設部門）



# 山に魅せられた後半生

2024年7月下旬、日本の登山界に衝撃が走った。登山界のアカデミー賞と言われるピオレドール賞を複数回受賞している世界的な登山家、平出和也氏（45：長野県富士見町出身）と中島健郎氏（39）の遭難記事だ。世界第2位の高峰「K2」の未踏ルートを登攀中、7,550m付近で滑落、遭難して二次遭難の恐れがあることから救助活動が打ち切られた。

登山家そして山岳カメラマンとして確固たる実績と名声を得てもなお未知なる高みを目指した二人、どうして死を賭してまで挑み続けたのか、山の魅力は計り知れない。



三ノ沢岳直下のお花畠(中央アルプス)

ごく平凡な市井の登山愛好家である私が山に魅せられたのは、これからの人生を考え始めた50歳を過ぎた頃。したがって登山歴はまだ20年にも満たない。私を魅了してやまない登山、それは“危険なスポーツ”であり高山であれ里山であれ常にリスクが付きまとう。

大自然が相手の登山では予期せぬ天候の悪化に直面することも多く、そこに人為的ミスが入り込むと重大事故に直結する。とりわけ下山時の疲れは判断ミスを誘発し危険性を増幅させる。なぜ人は危険を冒してまで山に登るのか、その理由は潜在するリスクをはるかに超える山の魅力に引き付けられるに他ならない。

太古の昔から山は信仰の対象であり、風雪にさらされ丸くなった石仏、苔むした石塔は麓から強力に背負われて寄進されたものであろう。今もなお鎮座して我々を導いている。

山の魅力は山岳信仰にとどまらず、大自然を構成する地形、地質、気象、動植物、四季の変化すなわち

森羅万象にある。加えて自然の息吹を感じる紀行文や心躍らせるエッセイを綴った山岳文学は、実際に山を歩かなくとも山に抱かれている幸せを感じる。

また山の幸が山の魅力を増幅させる。ゴミから始まる春の山菜、そして晩秋のキノコ。採る喜び、配る喜び、喜ばれる喜び、食べる喜びに突き動かされて山に通う。

ただ登山は“危険なスポーツ”であるため、無事下山して帰宅するまでは常に慎重に用心深く、ある意味で臆病でなくてはならない。先々のリスクを感じ取り回避する判断力が求められる。登山はPDCAサイクルであり、計画を立て実行に移し、その結果を評価し更なる改善につなげる。ここで大事なのは記録に残すことであり、次なる目標達成への布石となる。次頁の記録は、私が2023年8月に日本百名山達成に至った16年間の軌跡である。またこの間にマレーシア、中国チベット自治区、イラン、ネパール計5回の海外遠征に加わる機会を得たが、四季が織りなす山紫水明の日本の山々に勝るものはない。



雷鳥坂の日の出(北アルプス)

未だ山への情熱は尽きない。ただ古希を迎える今、山との向き合い方に変化が生じている。年間登山回数の更新、難易度の高いルート選択、コース時間短縮に執着していた愚かさを改め、これからは何よりもゆとりある安全登山を目指す。そして信頼関係で結ばれた山仲間を基軸として夫婦、親子での山旅を加え、これからも鍛錬を怠ることなく慎重に準備を進め、四季折々の大自然に触れながら年齢に応じた登山を終生楽しんでいきたい。

以上

## 林正昭：日本百名山達成に至る16年間の足跡

表中のかっこ内の数字は同年の登頂回数

達成日：2023年8月3日（木）

年号	登頂数	日本百名山				年間山行数	記憶に残る山	年齢	
		山名							
① 2023年（令和5年）	2	空木岳（2）	恵沢岳			92	開聞岳 荒川三山 大日三山	只見三山 宝剣岳 平標山（2）	67
② 2022年（令和4年）	8	筑波山	九重山	祖母山	霧島山	109	由布岳 夕張岳 塩見岳	幌尻岳 出羽三山 焼石岳	66
③ 2021年（令和3年）	16	伊吹山 岩木山 黒部五郎岳 蔵王山	剣山 八甲田山 立山 吾妻山	石鎚山 八幡平 劍岳 奥穂高岳	大山 岩手山 飯豊山 大峰山	120	堂津岳 安平路山 白毛門 氷ノ山	栗駒山 霞沢岳 北穂高岳 雲ノ平	65
④ 2020年（令和2年）	2	御嶽山	会津駒ヶ岳			88	雨飾山 赤岳 火打山	根海新道 毛勝山 荒沢岳	64
⑤ 2019年（令和1年・平成31年）	7	後方羊蹄山 光岳	塩見岳 薬師岳	赤石岳 笠ヶ岳	聖岳	89	菅名岳 大雪山 池口岳	芦別岳 北岳 乙妻山	63
⑥ 2018年（平成30年）	2	丹沢山	朝日岳			108	粟ヶ岳 富士山（5） 間ノ岳	針ノ木岳（3） 高妻山（2） 白神岳	62
⑦ 2017年（平成29年）	10	宮之浦岳 五竜岳（2） 霧ヶ峰	阿寒岳 鹿島槍ヶ岳 天城山	斜里岳 男体山	羅臼岳 日光白根山	95	西穂高岳 樂古岳 前穂高岳	屋久島三山 硫黄山 唐沢岳	61
⑧ 2016年（平成28年）	6	荒島岳 那須岳	大台ヶ原山 雲取山	水晶岳	鶯羽岳	93	大杉谷 富士山 鳳凰三山	氷ノ山 槍ヶ岳 鳥甲山	60
⑨ 2015年（平成27年）	2	磐梯山	安達太良山			59	医王山 中ノ岳 佐武流山	青海墨姫山 蓮華岳 白馬三山	59
⑩ 2014年（平成26年）	2	幌尻岳	平ヶ岳			61	小川山（2） 高妻山 苗場山	雨飾山 将棋頭山 四阿山	58
⑪ 2013年（平成25年）	6	十勝岳 越後駒ヶ岳	トムラウシ山 浅間山	木曾駒ヶ岳	槍ヶ岳	60	南木曾岳 アポイ岳 餓鬼岳（2）	瑞牆山（2） 大鳴岳 八海山	57
⑫ 2012年（平成24年）	5	美ヶ原 乗鞍岳	甲斐駒ヶ岳	仙丈ヶ岳	谷川岳	57	風吹岳（2） 富士山 赤岳	南木曾岳 表妙義山 唐松岳	56
⑬ 2011年（平成23年）	4	大菩薩嶺	武尊山	赤岳	蓼科山	47	丁須の頭（2） 金山 有明山	雨飾山 蝶ヶ岳 焼山	55
⑭ 2010年（平成22年）	7	赤城山 間ノ岳	苗場山 皇海山	火打山 鳳凰山	北岳	44	唐松岳 針ノ木岳 鳳凰三山	坊主岳 大天井岳 経ヶ岳（2）	54
⑮ 2009年（平成21年）	10	両神山 至仏山 瑞牆山	甲武信ヶ岳 燧ヶ岳 妙高山	恵那山 高妻山	巻機山 焼岳	50	爺ヶ岳（2） 鳥甲山 根子岳	権現岳 戸隠山 天狗岳	53
⑯ 2008年（平成20年）	5	常念岳 四阿山	白馬岳	金峰山	雨飾山	34	斑尾山 蓮華岳 蝶ヶ岳	鉢ヶ岳 戸隠山 八海山	52
○ 学生時代	6	富士山 草津白根山	利尻山 大雪山	阿蘇山	開聞岳				17~19

※この百名山は多くの岳友と共に歩んだ道程です。これ以降も謙虚に用心深く山と向き合っていく覚悟です。ありがとうございました。



常念乗越より槍ヶ岳、穂高岳(画・若狭宣子)

**林 正昭**  
(はやし まさあき)  
技術士（建設／  
総合技術監理）



# 協賛団体の御紹介と募集

日本技術士会長野県支部では2018年6月より協賛団体の制度を設け、現在4団体より協賛法人として支部運営の御協力を頂いております。支部活動にご協力いただける皆様のご協賛も募集しています。

## ・協賛団体とは

長野県支部では、地域的な活動の活性化と地域社会への貢献を目指し活動しております

このような活動主旨にご賛同いただける企業・団体様からのご協賛を、広く募集しています

## ・申込方法

所定の様式(協賛団体申込書)で申請をお受けするため、まずは支部事務局にお問い合わせ下さい  
協賛金は、1口当たり10,000円(年間)です。支部役員会での承認後、協賛団体証を発行致します

## ・メリット

- (1) 協賛団体の代表又はその代理の者は、当支部年次大会に出席し意見を述べることができる
- (2) 当支部会誌又はその他刊行物の配布を無償で受け、当支部の事業成果を当支部の了承を得て利用できる
- (3) 当支部が主催する講演会等(懇親会は除く)に協賛金1口当たり2名まで無料で参加できる

※「長野県支部運営における個別事項に関する手引き」より抜粋

## 長野県支部の協賛団体(2025年11月1日時点)

### 長野技研コンサルタント株式会社

(<http://ngc-kk.jp/>)

代表者：臼田 裕一(代表取締役)

〒381-2204 長野市真島町真島1292

### 株式会社アンドー

(<http://www.kkandoh.co.jp/>)

代表者：坪井 利幸(代表取締役)

〒390-0851 松本市島内3481-1

### 日本無線株式会社 技術士会

(<http://www.jrc.co.jp>)

代表者：対馬 肩吾(同技術士会 会長)

〒381-2289 長野市稻里町834

### 株式会社みすず総合コンサルタント

(<http://www.e-misuzu.com>)

代表者：増澤 宗(代表取締役)

〒386-1102 上田市上田原1073-4

## 備品貸し出しのお知らせ

長野県支部保有の備品を支部会員に無償で貸し出しています。ご利用ください。

- ・**プロジェクター** (2019年購入) エプソン製EB-U42 明るさ：3600lm 重量：2.8kg
- ・**スクリーン** (2020年 購入) マスク付き自立式スクリーン(持ち運びタイプ)  
サイズ：スクリーン W1770mm×H996mm、外形 1947mm×125mm×115mm、重量：13.2kg
- ・**web会議用の機材** (2024年 購入) zoom等のweb会議設営機材一式です  
スピーカーフォン(マイクスピーカー)、AC100V 15A延長コンセント3個口(20m)  
webカメラ、webカメラ用三脚(647~1870mm調節可)、ケーブル類等。1セットです

※ 備品貸し出しをご希望の方は、**支部事務局(又は支部幹事)**にお問い合わせください。

### 編集後記

昨年の夏は記録的な暑さで、外仕事(主に庭の片づけ)等も、まだ気温が比較的涼しい早朝の僅かな時間しか行えず、「涼しくなったらやろう」と放置していたら、あっという間に冬。今度は「暖かくなったらやろう」と春を待つ様になってしましました。最近は四季ならぬ二季になってきているとか。二季なりの生活リズムにしていかないといけないですね。(M.Y)

### 公益社団法人 日本技術士会 長野県支部

支部事務局の  
所在地が変更  
となりました

#### 【支部事務局】

〒399-2601 長野県飯田市虎岩438番地2 池田技術士事務所 内  
TEL 070-5376-5995

E-mail:penagano@penagano.org

URL :[https://www.engineer.or.jp/c\\_shibu/nagano/](https://www.engineer.or.jp/c_shibu/nagano/)

※ 日本技術士会 長野県支部 会報第9号(令和7年1月発行)

企画・編集：支部広報委員会 山田 誠・宇都宮 敦・西村 知紘

校正・印刷製本：支部事務局 池田 弘美、(株)アンドー

本会報(カラー)は、日本技術士会ホームページ

→ 地域別の活動の紹介(地域本部・県支部)

→ 長野県支部のページに掲載しています

(URLは上記枠内に記載)